

## 平成 21 年度鳥取県男女共同参画意識調査

# 集計結果（速報）

本書は「平成 21 年度鳥取県男女共同参画意識調査」の主要な調査項目について、集計結果のあらましをまとめたものです。詳細については後日（平成 22 年 3 月予定）刊行する報告書に掲載します。

### 目次

調査の概要	1
回答者の属性	
資料のみかた	2
集計結果	
1 各分野における男女の地位の平等感〔問 1〕	3
2 性別によって男女の役割を決める考え方について〔問 3〕	6
3 仕事と生活の調和に関する希望と現実〔問 5〕	8
4 DV 及びストーカーの被害経験〔問 13, 14〕	10
5 用語の認知度（男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランス）〔問 16〕	11
【参考】調査項目一覧	12

## 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、男女共同参画についての県民の意識等を的確に把握し、今後の男女共同参画行政を推進するための基礎資料を得ることを目的とした。

なお、この調査は、昭和57年度から5年毎に実施しているもので、今回が6回目の調査である。

### 2 調査の方法

- (1) 調査対象 県内に居住する20歳以上の男女
- (2) 調査地域 県内全域
- (3) 調査客体 2,410 (平成20年10月時点の推定人口×1/200)
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成21年8月1日～8月10日
- (7) 実施主体 鳥取県企画部男女共同参画推進課

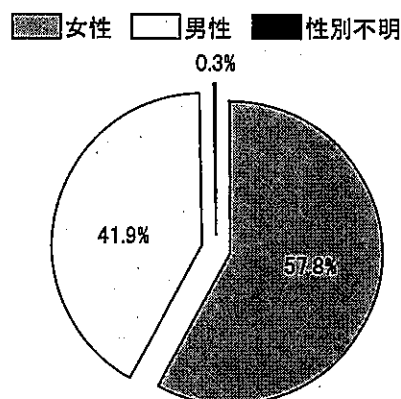
### 3 回収結果

配布数	2,410
有効回収数	1,333
有効回収率	55.3%

### 回答者の属性

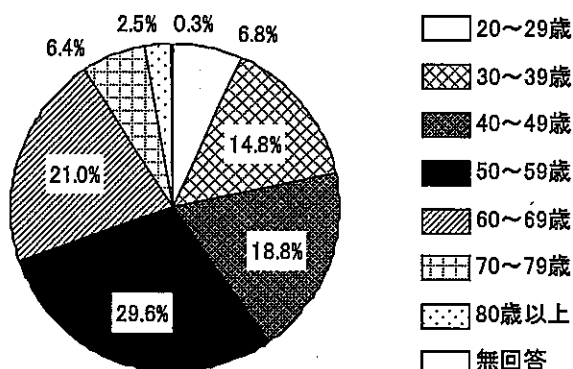
#### 1 性別

全体	女性	男性	性別不明
1,333	770	558	5



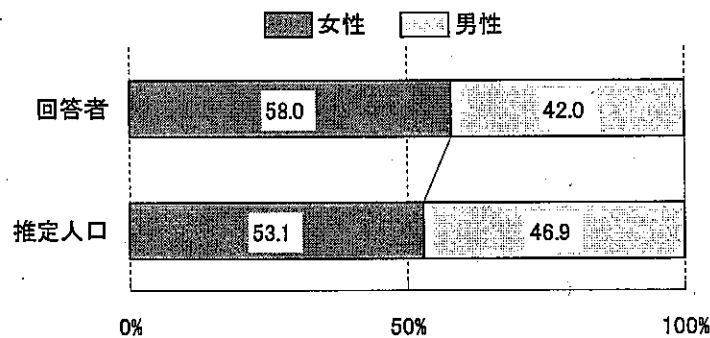
#### 2 年齢階層

区分	全体
20歳代	90
30歳代	197
40歳代	250
50歳代	394
60歳代	280
70歳代	85
80歳代～	33
無回答	4
合計	1,333

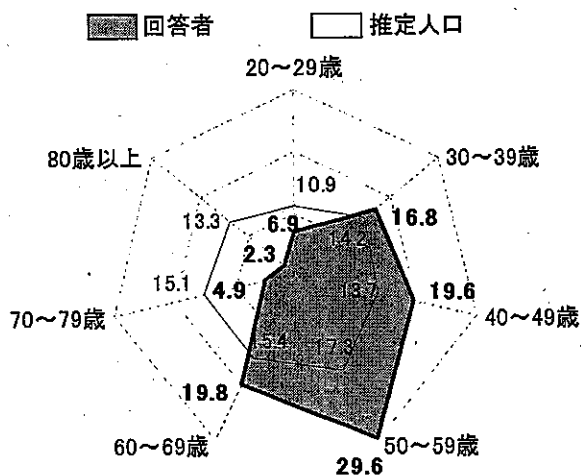


## 資料のみかた

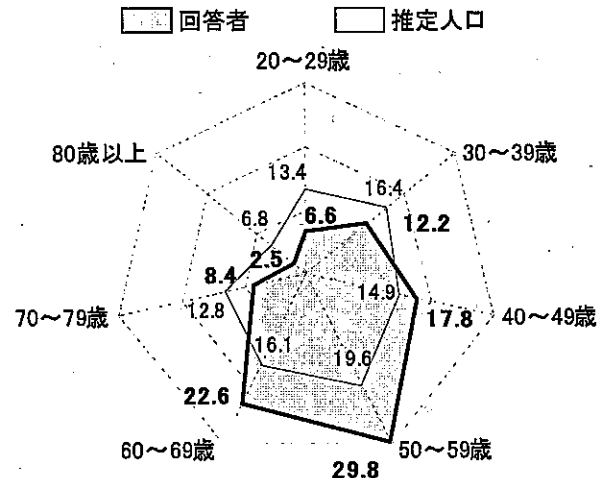
- 各設問での調査結果の数値は、集計対象者数「n」に対する回答率（％）で表記している。  
回答率（％）は、少数点以下第2位を四捨五入して第1位までを表記しており、各回答率（％）を足しあげてもちょうど100.0にならない場合がある。
- 調査結果に用いた数値には、無回答・不明回答を除いている。また、単純集計には「性別不明」な回答数も含んでいるが、男女別の数値・図表においては「性別不明」の回答数は含んでいない。このため同一の設問について、単純集計時の集計対象者数「n」と性別集計などを行った際の集計対象者数「n」は必ずしも一致しない。
- 図表においては、読みやすさを目的として各設問における選択肢を適宜省略化しているところがある。
- 時系列比較を行っている部分は、過去に実施した同調査の結果を用いている。  
なお、全国調査結果は調査方法、設問・選択肢の文言が異なるため、参考掲載に留める。
  - ・「前回調査」…鳥取県男女共同参画意識調査（鳥取県・平成16年8月）
  - ・「全国調査結果」…仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する特別世論調査（内閣府・平成20年6月）
- 調査客体を選ぶにあたっては推定人口の男女比に準じ無作為抽出を行ったが、回答者には性別・年齢構成に以下のような偏りが見られるので留意されたい。



〔女性〕



〔男性〕



# 1 各分野における男女の地位の平等感

問1 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

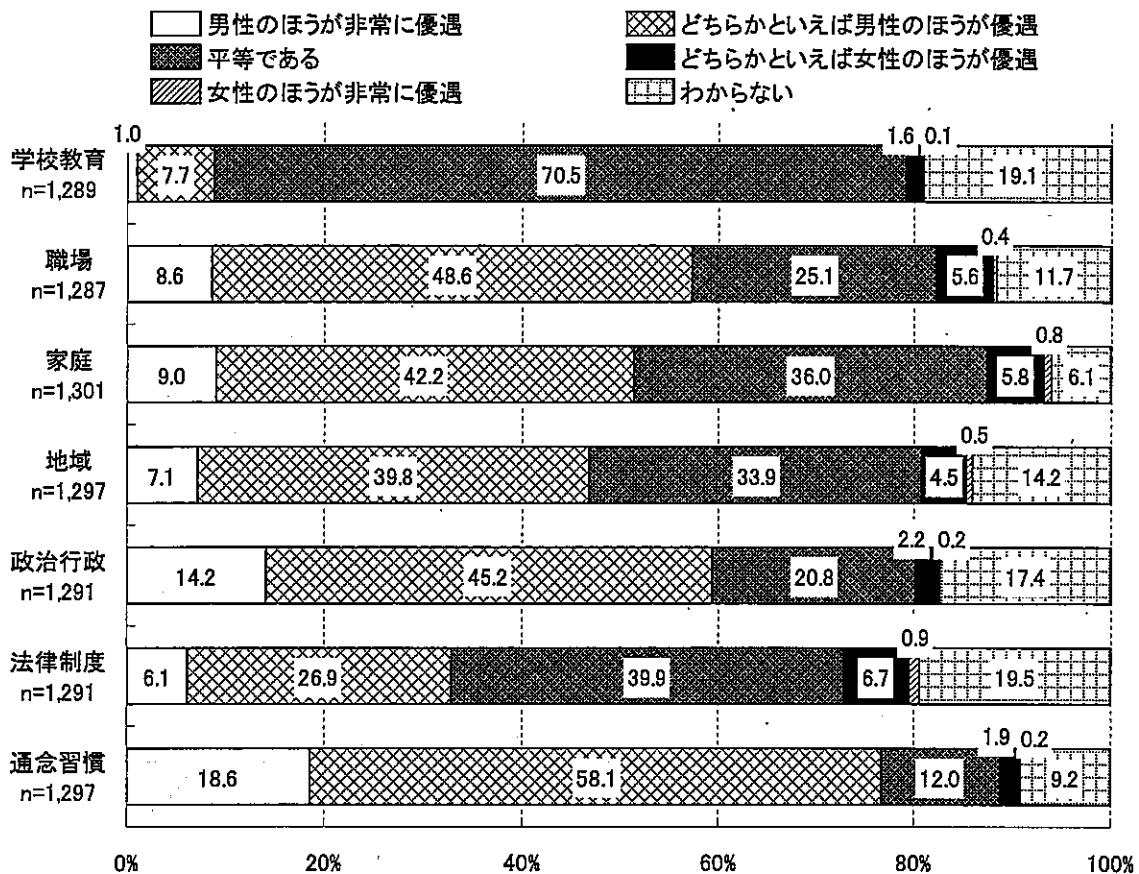
①～⑦の項目それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

	優遇されている 非常に	男性のほうが 優遇されている	どちらかといえば 男性のほうが 優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性のほうが 優遇されている	女性のほうが 非常に優遇 されている	わからない
① 学校教育で	1	2	3	4	5	6	
② 職場で	1	2	3	4	5	6	
③ 家庭生活で	1	2	3	4	5	6	
④ 町内会や地域で	1	2	3	4	5	6	
⑤ 政治や行政の施策・方針決定の場で	1	2	3	4	5	6	
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6	
⑦ 社会通念・習慣やしきたりなどで	1	2	3	4	5	6	

## 集計結果の要点

- ・「学校教育」「法律・制度」以外の分野では、男性優遇と考える割合が高い。
- ・経年的には、いずれの分野においても男性優遇と考える割合は減少してきており、平等感が徐々に高まりつつある。

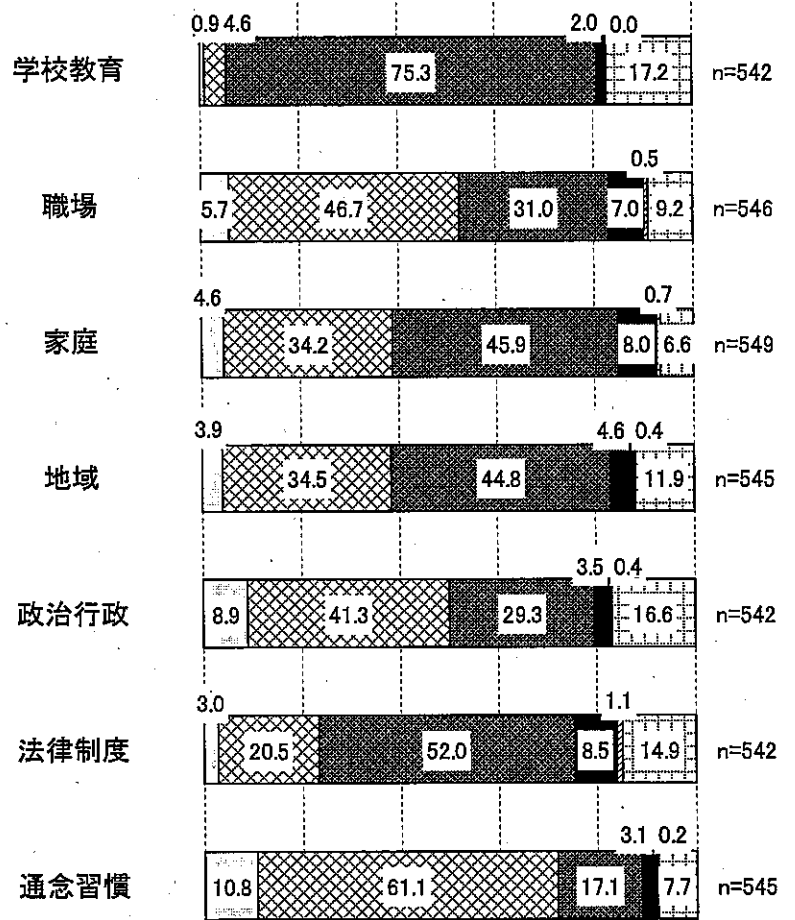
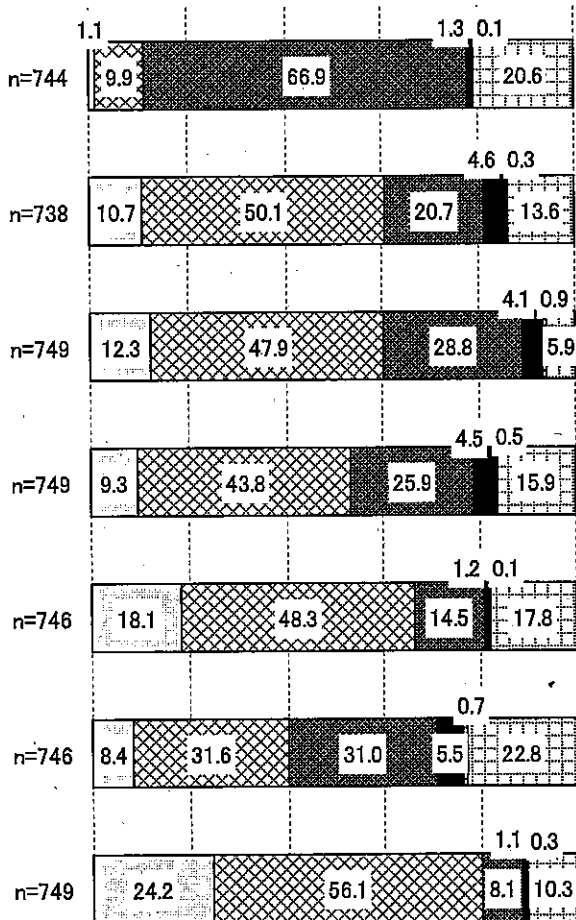
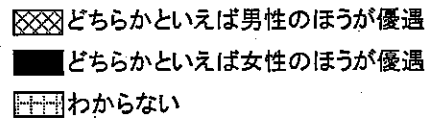
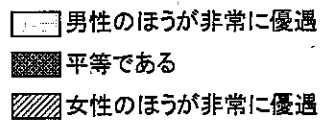
## 単純集計



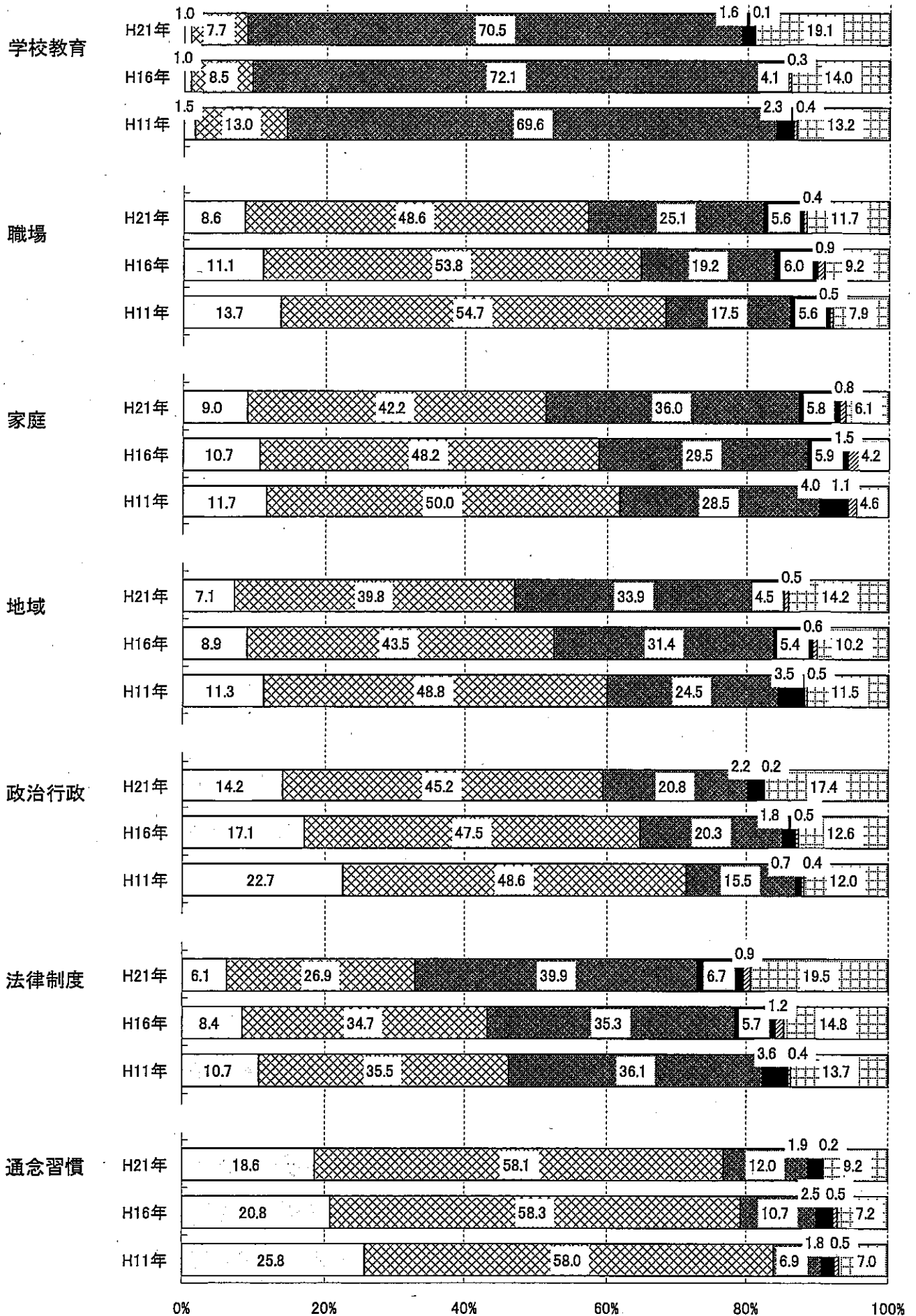
性別集計

〔女性〕

〔男性〕



過去の調査結果との比較



## 2 性別によって男女の役割を決める考え方について

問3 「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

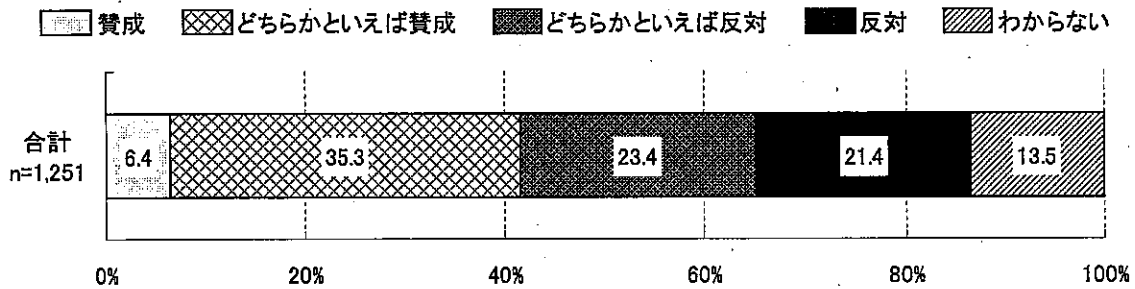
1	賛成	4	反対
2	どちらかといえば賛成	5	わからない
3	どちらかといえば反対		

### 集計結果の要点

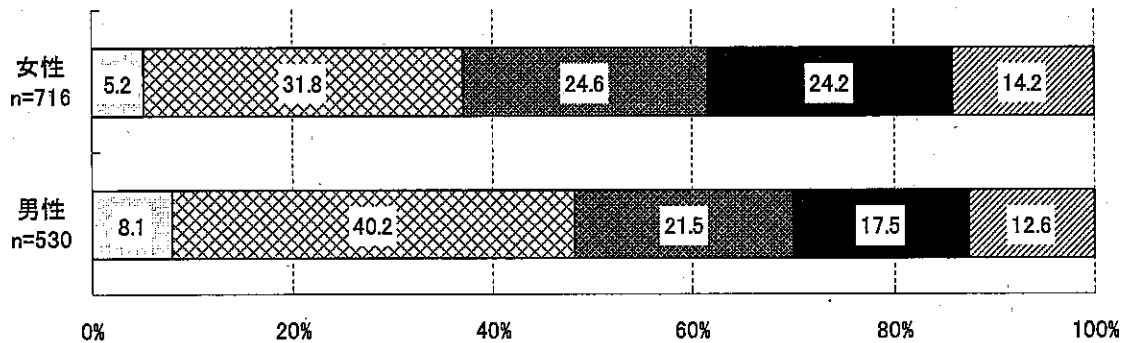
- ・ 賛成群と反対群の回答率は拮抗している。
- ・ 経年的には、長期的には賛成群が減少し反対群が増加してきているが、短期的には大きな変化は見られない。

### 単純集計

賛成群（賛成＋どちらかといえば賛成）	41.6%
反対群（反対＋どちらかといえば反対）	44.8%
わからない	13.5%

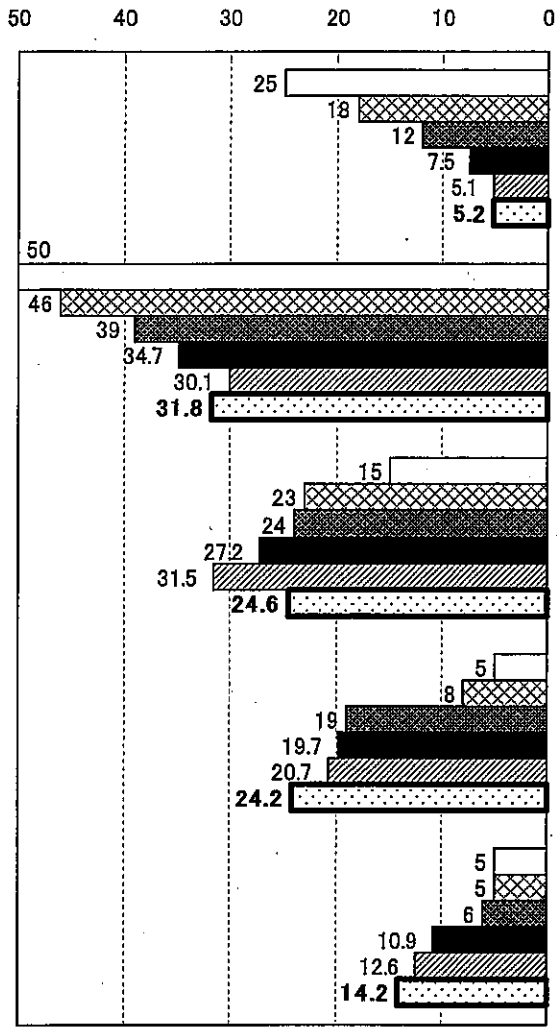


### 性別集計

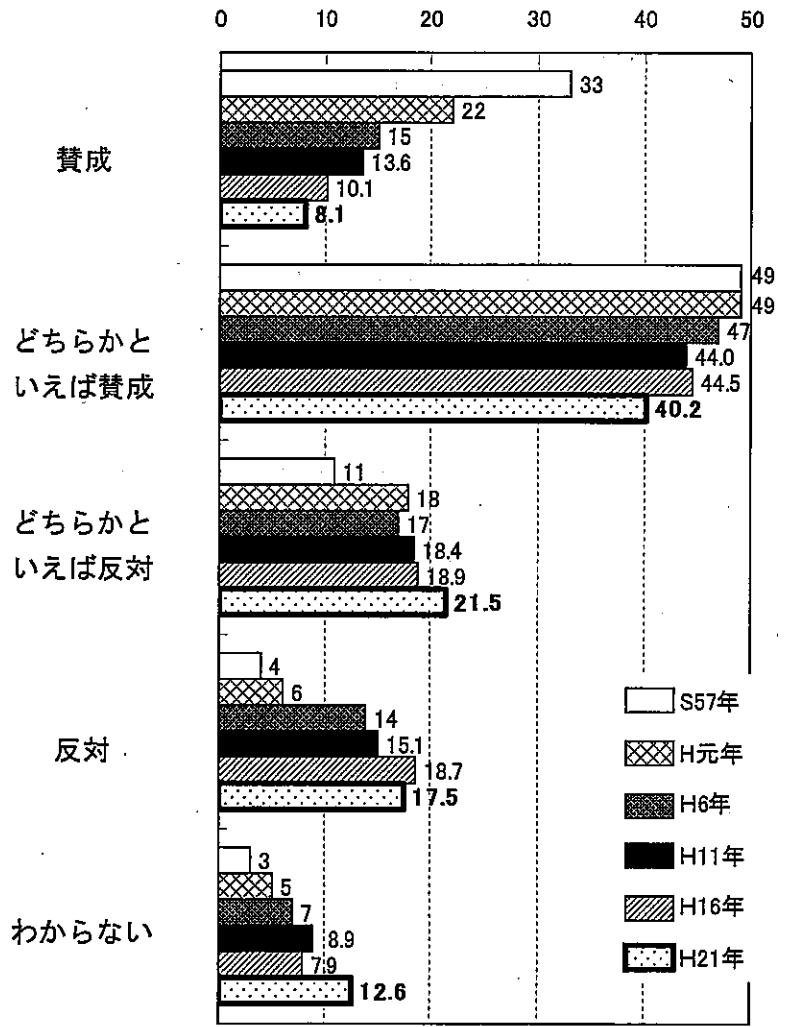


過去の調査結果との比較

〔女性〕



〔男性〕





### 3 仕事と生活の調和に関する希望と現実

問5 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。

なお、この質問における用語の意味は次のとおりです。

【仕事】自営業主、家族従業者、雇用者として週1時間以上働いていること。

【家庭生活】家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。

【地域・個人の生活】地域・社会活動(ボランティア活動、社会参加活動、交際、つきあいなど)、学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど。

(A) まず、あなたの希望に最も近いものを1つ選んでください。

1	「仕事」を優先したい
2	「家庭生活」を優先したい
3	「地域・個人の生活」を優先したい
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスをとりたい
8	わからない

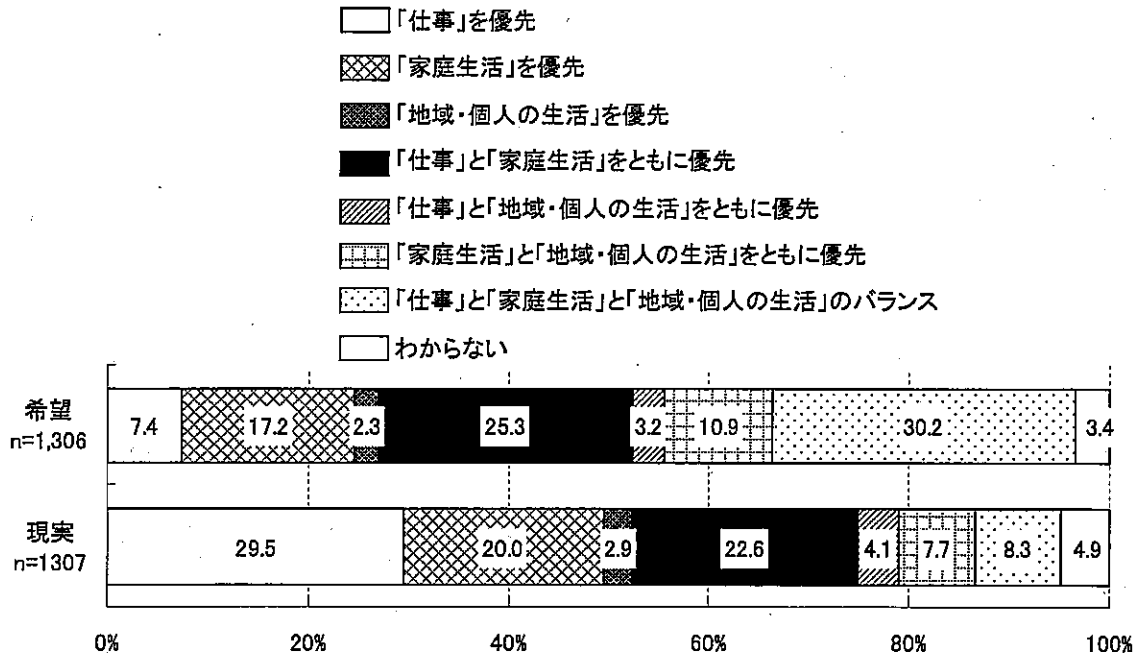
(B) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものを1つ選んでください。

1	「仕事」を優先している
2	「家庭生活」を優先している
3	「地域・個人の生活」を優先している
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスがとれている
8	わからない

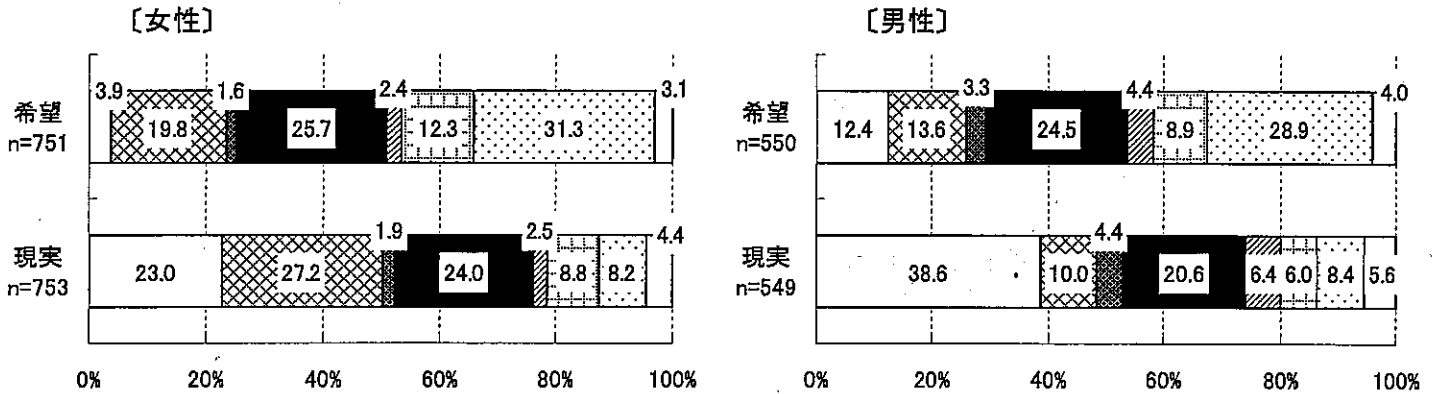
#### 集計結果の要点

- ・ 理想としている生活と現状にはギャップが見られる。
- ・ 全体、男女ともに約3割の人が仕事と生活の調和を望んでいるのに対し、実現できている人は1割に満たない。
- ・ 希望と比べ現実では、男性が「仕事」、女性が「仕事」及び「家庭生活」を優先している割合が大きい。

単純集計



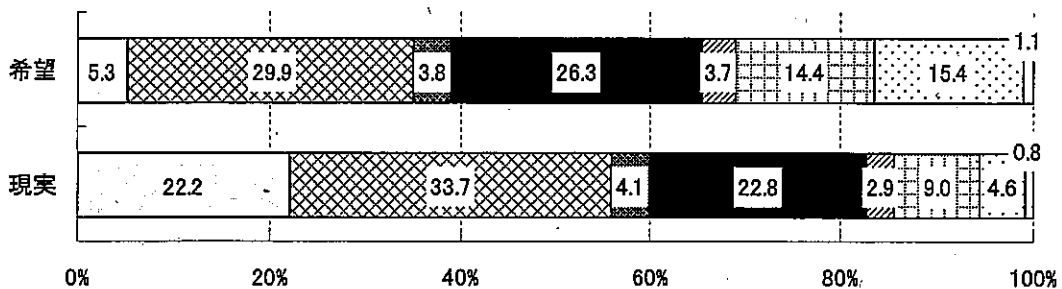
性別集計



参考資料：全国調査結果 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方

出典：仕事と生活の調和（ワークライフバランス）に関する特別世論調査  
（内閣府・平成20年6月）

- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに
- わからない



#### 4 DV及びストーカーの被害経験

問13 配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力等を受ける「ドメスティック・バイオレンス（DV）」に関して、あなたは暴力の被害を受けたことがありますか。

1	この1年の間に、被害を受けた
2	この2～5年の間に、被害を受けたことがある
3	この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある
4	経験したことはない

問14 同じ人につきまったり、執拗に電話をかけるなどの、いわゆるストーカー行為に関して、あなたは被害を受けたことがありますか。

1	この1年の間に、被害を受けた
2	この2～5年の間に、被害を受けたことがある
3	この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある
4	経験したことはない

#### 集計結果の要点

##### 【DVの被害】

- ・ 女性で16人に1人、男性で50人に1人が、この5年の間に被害を受けた(受けている)と答えている。
- ・ 過去に被害を受けたことがあると答えた人を含めると、女性のおよそ6人に1人、男性の32人に1人程度がDVの被害経験があることになる。

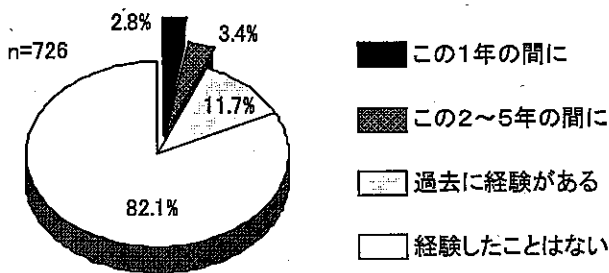
##### 【ストーカーの被害】

- ・ 女性の13人に1人、男性の100人に1人強が、過去にストーカーの被害を受けたことがあると答えている。

#### 性別集計

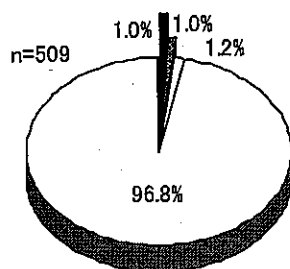
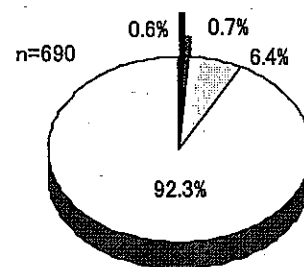
##### DVの被害経験

〔女性〕

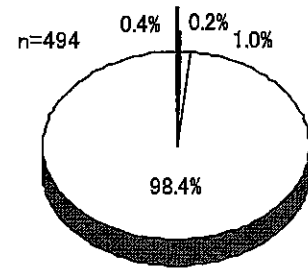


##### ストーカーの被害経験

〔女性〕



〔男性〕



〔男性〕

## 5 用語の認知度

問16 あなたは、次の言葉について知っていますか。

### 1 男女共同参画社会

1	知っている	2	聞いたことがある	3	知らない
---	-------	---	----------	---	------

〔男女が社会の対等な構成員として、性別にとらわれることなく政治的、経済的、社会的及び文化的なあらゆる分野に参画し、共に責任を担う社会〕

### 5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

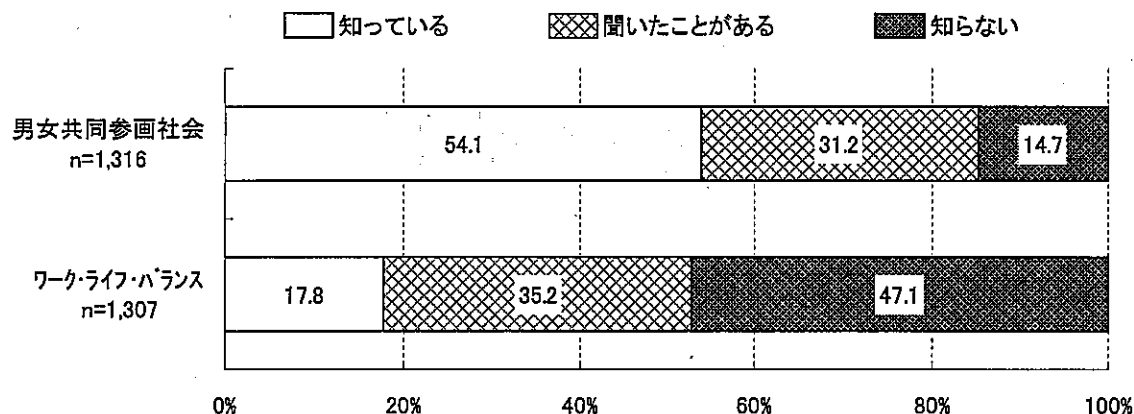
1	知っている	2	聞いたことがある	3	知らない
---	-------	---	----------	---	------

〔だれもが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自分の希望するバランスで実現できる状態のこと〕

### 集計結果の要点

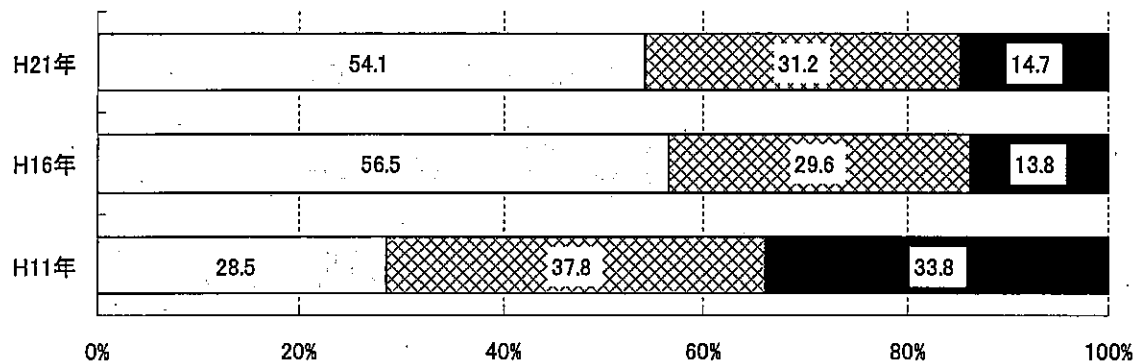
- ・「男女共同参画社会」の認知度は前回調査から大きな変化は見られない。
- ・「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は、おおよそ半数の人には知られていない。

単純集計 ※ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）は、今回新たに調査



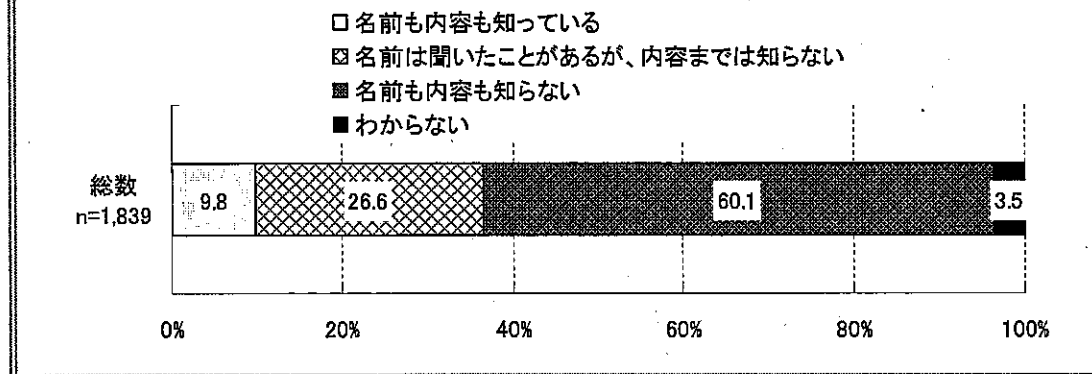
### 過去の調査結果との比較

#### 男女共同参画社会



参考資料：全国調査結果 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度

出典：仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する特別世論調査  
（内閣府・平成20年6月）



【参考】調査項目一覧

- 1 各分野における男女の地位の平等感〔問1〕
- 2 男女が平等な立場で協力し合っていくために大切なこと〔問2〕
- 3 性別によって男女の役割を決める考え方について〔問3〕
- 4 家庭の仕事の分担状況〔問4〕
- 5 仕事と生活の調和に関する希望と現実〔問5〕
- 6 男性が女性とともに家事等に参加するために必要なこと〔問6〕
- 7 子育て支援に期待すること〔問7〕
- 8 介護支援に期待すること〔問8〕
- 9 女性の働き方についての考え〔問9〕
- 10 職業を持っている理由〔問10〕
- 11 職業を持っていない理由〔問11〕
- 12 やりたい仕事があれば働きたいか〔問12〕
- 13 ドメスティック・バイオレンス被害の経験と相談〔問13〕
- 14 ストーカー被害の経験と相談〔問14〕
- 15 男女間における暴力をなくすためには〔問15〕
- 16 用語の認知度〔問16〕
- 17 選択的夫婦別姓について〔問17〕
- 18 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由〔問18〕
- 19 鳥取県男女共同参画センター“よりん彩”で力をいれるべき事業〔問19〕
- 20 男女共同参画社会実現のために行政が力を入れるべきこと〔問20〕